（別紙1）　　令和　元　年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0992500090		
法人名	ミツイ商事　有限会社		
事業所名	グループホームえにし苑		
所在地	栃木県那須郡那珂川町谷川1609		
自己評価作成日	令和1年11月10日	評価結果市町村受理日	令和2年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/aHyokaTop?Op

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人　栃木県社会福祉士会
所在地	宇都宮市若草1-10-6　とちぎ福祉プラザ3階　（とちぎｿｰｼｬﾙｹｱｻｰﾋﾞｽ共同事務所内）
訪問調査日	令和元年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

栃木県最東部の八溝山系の山あいに広がる元小学校廃校を利用した施設です。地域の方にとっては親子代々の学び舎でもあるので、懐かしい馴染みの場所でもあります。廃校後に施設ができ、元学校に明かりがついていることに喜んで頂いています。地元の職員も多く、ご利用者様・職員とも顔馴染みの関係でもあります。ご利用者様一人ひとりの生活のペースを大切にし、自立支援に努めています。野菜の皮むきや刻み等、料理の下ごしらえをして頂いたり、昔懐かしいおやつ作りなど毎日の生活にメリハリつける工夫をしています。併設する小規模多機能ホームのご利用者様との交流も図っています。地域交流会そば祭りも毎年地元のそば打ちボランティアの協力で、打ち立てのお蕎麦を地域の方に食べて頂いています。毎年行っている盆踊りの太鼓やお囃子は地域の方や子供達にも入って頂き盛大に開催しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

・当事業所は、地域の方の誰もが慣れ親しんだ小学校を改築して造られたグループホームである。事業所の2階の交流スペースでは、地域包括支援センター主催の体操教室が行われている。毎年開催される夏祭りは校庭が会場となり、地域のボランティアの協力を得て盛大に行なわれている。
・地域で行われる認知症啓発イベントのRUN伴や花の風祭り（町おこし）に参加している。また毎年そば打ち名人に来てもらい、事業所内でそば祭りを開催している。運営推進会議では、身体拘束防止に関する実践事例の検討会や災害について事業所と地域が一体となって話し合いをしている。
・在宅医療連携も積極的に取組まれ、各専門職と連携して看取りケアが行われている。また、居室に簡易ベッドを設置して、家族がいつでも付き添うことができるようにしている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

一般社団法人栃木県社会福祉士会

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人共通の理念を掲げ、理念に沿った考え方・行動ができるよう実施している。毎日朝礼で唱和を行い、一日の仕事の始まりの姿勢につなげている。	朝礼時に理念を唱和し経営理念に沿って、実践できるよう努めている。また、年度初めには年間の個人目標を設定し、日々のケアに従事している。定期的な会議の中でも理念を振り返る機会を持って支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治体に加入し、道路・河川掃除や草刈りに参加している。新年会に参加し交流を図っている。盆踊り大会やそば祭りを行い地域に親しまれている。	自治会の行事や認知症啓発イベントのRUN伴、花の風祭り(町おこし)に積極的に参加している。校庭で行われる夏祭りは、地域のボランティアの協力を得て盛大に行われている。毎年そば打ち名人が事業所に来て、そば祭りを開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	花の風まつりやRUN伴に参加し認知症理解の為の寸劇を行っている。えにし苑広報に介護豆知識を記載し地域に回覧している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議における意見は、重要な財産ととらえ改善努力を積み上げている。	参加者は、自治会長や民生委員、行政職員、家族代表、利用者など毎回15名程で開催している。会議では、事業所の報告や地域でのサロン活動の報告、身体拘束防止に関する実践事例の検討会などが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	窓口に足を運んだり、地域包括とも密に連絡をとり急遽受け入れの対応等、協力関係を築いている。町主催の会合に積極的に参加している。行政主催の体操教室に場所を提供している。	1市1町で開催されている在宅医療連携事業の会議に年4回参加し、顔の見える関係を作っている。また、事業所2階の交流スペースを行政主催の体操教室に提供している。夏祭りの会場は、町所有の校庭で盛大に行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員は、常に利用者の行動に注意を払い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束排除に係わるマニュアルと社内研修により全職員理解している。玄関は日中施錠していない。	運営推進会議で身体拘束防止に関する実践事例の検討会を開催している。また、職員が講師となってマニュアルを基に社内研修が行われている。玄関の施錠はなく、利用者が自由に外出できる環境である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待に対して事業所の徹底的な指導及び研修にて全職員理解している。自宅での様子に常に注意を払い、入浴時に身体の傷やあざ等をチェックしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について研修を行っている。活用できる体制をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書に基づき一項目ずつ説明し、理解納得したうえで契約して頂いている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来苑時は必ず日頃の様子を伝え、要望や意見を聞いている。意見はミーティングで検討しサービスの質の向上につなげている。	家族が来所した際には、職員が利用者の近況を報告し、家族からの意見も得られるようにしている。日頃から職員が利用者と余裕をもって接するようにし、意見を得るようにしている。今年の夏祭りの開催は、地域で不幸があったため、多くの意見を考慮して次年度開催としている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングで意見や提案を出し話し合い、毎月の経営会議に意見を上げ、職員の働く意欲の向上へ反映させている。	職員間での情報共有は、昼礼などを通して行っている。毎月の職員会議では、業務内容の検討を行い改善を図っている。フルタイム勤務にこだわらず、職員が働きやすように短時間で働ける体制作りをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の努力や実績・勤務状況を把握している。やりがいや向上心を持って働けるような配慮・対応をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月社内研修を受け、介護技術の向上に努めている。社外研修や資格取得の為の研修に積極的に参加できるよう促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者との交流会に積極的に参加している。参加した職員はミーティング時に、内容を伝えサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学をして頂き、本人も含め家族から話を聞き安心して入所して頂いている。職員はいつも傾聴を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の基本情報を出来るだけ細かく聞き情報共有をし、家族の気持ちを受け止め要望を大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	傾聴において本人と家族にとって安心し納得して利用できるよう、必要な支援を見極め迅速に対応するとともに、他サービスでの対応が可能か職員全員で検討し提案を行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護される一方の立場におかず、職員と一緒に洗濯干し・洗濯たたみ・庭の草むしり・料理の下ごしらえ等行っている。「共に過ごし、学び、支えあう」関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はあくまでも本人と家族の支援者であることを理解し、本人と家族の絆を大切にしている。疎遠の家族へは電話や毎月の広報にて様子を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力の下、馴染みのお蕎麦屋さんへ行っている。知人や友人の方が面会に来て一緒にお茶を飲みながら楽しく過ごされている。馴染みの方が出入りしやすい環境作りに努めている。	友人や知人の面会があったり、地域の方が野菜を持参されたりと事業所へ気軽に来られる環境である。家族と共に通院や外食、自宅などへの外出も行われている。姉妹での手紙のやりとりなどが継続できるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでの座る位置を考え、安心して過ごせるようにしている。洗濯たたみや料理の下ごしらえをする時等、利用者同士協力し行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も、その後の相談や移り住む先の関係者へ、本人の状況、習慣、好み、ケアの工夫等の情報を伝えて相談や支援に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が一人ひとりの思いや意向について、関心をはらい把握に努めている。把握が困難な場合は、本人の視点に立って意見を出し合い話し合っている。	利用者との対話を重視し、時間をかけ把握するようにしている。意思疎通の難しい方は、本人の表情から読み取って判断している。気になる発言がある際は、職員会議などで検討して家族へも伝えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から得た情報を基に本人の生活暦を把握し、本人や家族等と馴染みの関係を築きながら、自分らしく暮らしていけるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は一人ひとりの一日の暮らしの流れにそって、本人の状況を総合的に把握していくことに努めている。また本人のできる力・わかる力を暮らしの中で発見していくことに努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	設定期間ごとの見直しはもとより、本人・家族の要望や変化に応じて臨機応変に見直している。	料理の手伝いや草むしり、洗濯物干しなど、自分で出来ることを取り入れた介護計画である。家族・利用者と職員で年1回の介護計画を作成し、変化があった際は随時見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にはケアの実践・結果・気付きや工夫を具体的に記入し、より良いケアに向けて情報を共有しケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のその場、その時のニーズに応じて臨機応変に対応し、柔軟な支援に努め事業所の多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括主催の「楽しい運動教室」に参加している。保育園・小学校との交流会、中学生のマイチャレンジやボランティア等の受入れを積極的に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医の継続的な医療が受けられるよう支援している。協力医による月2回の往診を受けている。緊急時対応等、自慢できるだけの支援をしている。	かかりつけ医の継続を支援し、家族が受診対応をしている。現在、協力医の訪問診療は7名利用している。隣接する小規模多機能型事業所の看護師の協力体制があり、利用者の健康チェックが行われている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化、異常の早期発見に努めすぐに看護師へ報告している。適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、病院関係者との情報交換や相談に努め、安心して治療ができ早期退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期は、本人・家族・主治医の意向を確認しながら、対応方針を共有している。家族と主治医と職員とで連携を図りチームで支援に取り組んでいる。	医師は本人・家族や職員と話し合い、事業所内で看取りを行っいる。利用者・家族と事業所が一体となって、最後まで自分らしく過ごせるよう、心身の苦痛の緩和に努めて支援している。また、居室に簡易ベッドを設置して、家族がいつでも付き添うことができるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全員が対応できるよう救急法の研修や避難訓練を行っている。AEDの使い方の研修をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の方に来ていただき、年2回避難訓練を実施している。地域の方に緊急連絡協力を得ている。	避難訓練を年2回実施し、消防署の立ち合いの下で行われている。地域の協力で連絡網を作成して、緊急時には駆けつけてくれる体制になっている。備蓄は食料だけでなくオムツも用意している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し尊厳を損なわないよう、言葉かけや対応に常に注意して支援している。	トイレの誘導は他者に聞かれないように、耳もとで声を掛けるようにしている。職員は一人ひとりの利用者の人格を尊重して支援に努めている。職員はプライバシーに関する研修を年1回行っている。	利用者の呼び名などで、馴れ合いの中で本人の尊厳に欠けた対応にならないよう、常に意識の徹底が図れるような取組みに期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の場面ごとに、自己決定できるような声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事・就寝等、本人のペースで生活している。日中活動も本人を見守りながら、個人個人の生活スタイルに合わせ希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みや意向に応じて、自分で洋服を準備して好きな服を着ている。散髪も本人に希望を聞いて定期的に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者から要望を聞き献立に反映している。野菜の皮むきや刻み等、下ごしらえを職員と一緒に行っている。	業者から食材を調達してもらい、3食の手作りの食事で提供している。また、事業所の畑から採取した野菜も食事に提供している。利用者は料理の下ごしらえなどを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量をチェックし記録している。水分は一日を通して1,400ccとるようにしている。利用者の嗜好・アレルギー・加糖制限・水分制限を把握し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアには特に気をつけている。口腔機能の低下によるリスクを研修にて周知している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄最優先の原則を心がけている。排泄のパターンをつかみトイレでの排泄に向け支援している。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄リズムを把握し、状態に応じた支援を行っている。その積み重ねにより、利用者の数名は介護度が軽くなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による発熱や食欲不振などの観察を行い、水分補給や運動への働きかけをして、自然排便できるよう努めている。又、3日排便がない時には看護師に報告し、個々に応じての対応で排便を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の曜日や時間は決まっているが、会話を楽しみながら自分のペースで入浴されている。入浴するかどうかは、本人の意思を尊重し無理強いはしていない。	個人浴槽で週に2～3日で入浴を行っている。また、リフト浴が整備されており、身体状態が低下しても安全に入浴できる環境が整備されている。ゆっくりと安心して入浴できる時間を設けたり、季節に応じた変わり湯の提供するなどの工夫が見られる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は居室でテレビをみて過ごしたり、午睡して過ごしてる。15時にはホールへ来て皆さんでお茶を飲みながらおやつの時間を過ごしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者服用の調剤内容を一冊のファイルに保管し整理している。薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。服薬内容が変わった時には、業務日誌に記録すると共にミーティング等で話し理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	庭の草むしりや季節の野菜（しその実とり・フキの皮むき・小豆こなし・干し柿作り）など、年間を通して役割を持っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望にそうのは難しいが、桜や紫陽花のお花見ドライブ・紅葉ドライブへ出掛け、食堂での外食を行っている。	日々の散歩の他に、桜や紅葉などの花を見に年3回は外出している。利用者は、レストランに出かけると普段よりも食欲が旺盛になり、外出の効果が出ている。地域サロンの体操教室やおやつ作りに参加し気分転換を図っている。	利用者の気分転換や張りのある生活が送れるよう、年3回以上の外出の機会が得られるよう期待します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分の必要なものを購入したい時には、家族に相談し希望に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	他県に住んでいる妹と手紙やはがきのやり取りをしている利用者もいる。電話もやり取りできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や洗面台には季節の花を飾り、リラックスや和みの効果を作っている。ホール内には季節感溢れる利用者の作品が飾ってある。	玄関やリビングに季節のタペストリーを飾り、季節感が出るようにしている。冬季時には、長い廊下に暖房器具が完備され、寒さを感じることなく移動ができる。ソファーやマッサージチェアを配置し、ゆったりと過ごせるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同志の思いを重視し座席の配置を工夫している。玄関や廊下には休憩できる椅子やマッサージチェアがあり、毎日マッサージを楽しまれている方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ・タンス・写真等、好みのものを持参している。落ち着くものがあれば持ち込んで下さるよう家族に話している。仏壇を持って来ている方もいる。	小学校の各教室を改造して、居室に造り変えられているため窓から校庭が見える。居室には家具やテレビ、写真など自宅で使っていたものを持参してもらい、生活の継続性を意識した空間作りが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を活用し出来ることを持続させて頂き、出来る限り自立した生活が出来るように支援している。		